

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 1 月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470103957		
法人名	有限会社 もえぎ		
事業所名	グループホーム もえぎ（ふたばユニット）		
所在地	広島県広島市安芸区船越南二丁目20-16 (電話) 082-821-2261		
自己評価作成日	令和1年12月25日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470103957-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年1月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

その人その人の、今までの物語（生活歴）を大切に、スタッフも物語を知った上で、各入居者の心に寄り添うケアを実践している。また、入居者の心が動いた時に、すぐに行動ができ、そして小回りのきくケアを実践している。個々人それぞれにケア内容は違い、一人ひとりが持つ力を最大限に活かし、笑顔が絶えないケアをスタッフ一丸で取り組んでいる。理念である「笑顔と温もりの中でそして家族として…」を大切に考え色々な場面において、自分の親や祖父母だったらどうするだろうかと常に自分自身に問いかけ、もえぎが入居者様の「家」に近づけるように日々努めている。買物等、どんどん外に出て行くようにし、家族や知人、ボランティアの方々の訪問を積極的に受け入れ、閉鎖的にならないように、常に外の空気が入って来るように努めている。また、家族会との合同行事を年に5回行い、ご家族との信頼関係を築いている。職場体験や専門学校、介護職員初任者研修の実習施設として、地域に開かれたホームになるように努めている。「魅力ある福祉・介護職場宣言ひろしま」の事業所として登録をし、職員も働きやすい職場になるように努めている。平成30年度から「ありがとうカード」を導入して職員間のコミュニケーションを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

一人ひとりが主体となっていくいきと過ごせるようスタッフ及び関係者のチームアプローチで、個々の思いを感じ取る心を育み、その人に合ったケアの工夫を心掛けサービス向上に努めている。近隣の小学校との交流・住職の法話やボランティアの来訪・中学生の職場体験や実習生の受け入れなど、外部交流を積極的に取り入れ、日々の生活の活性化を図っている。家族も参加する季節毎の行事を豊富に企画し、今年度はタスキを繋ぐ「RUN伴」への協力応援や、音戸大橋近辺へ外出し見学と食事を楽しむなど、共に集い絆を深めるよう取り組んでいる。長年地域に根差したコミュニティの一角としての役割を担い、様々な変化への迅速な対応や、防災・減災活動を強化している。

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月1回の職員全体会議で、基本理念に基づいた研修や話し合いを行い、基本理念について職員が常に振り返る様になっている。茶話会で対応が難しい時は、理念を基本にして、職員間で話し合い、毎日、笑顔で入居者に接するように努めている。名刺大の三つ折り携帯カードに理念を書いて全職員に配りいつでも確認できるようにしている。	理念を書いたカードを各職員が携帯し振り返りのアイテムとして活用している。毎月のユニット会議で話し合う場を設け、より豊かなコミュニケーションが取れるようになっている。個人目標の充実に図り、日々のケアに反映させるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎年、お祭りや地域の行事などに参加しており、準備や後かたづけや反省会にも、毎年参加させて頂いている。秋祭りではお神輿を担ぐなど、年々地元の人々と交流が深まっている。毎日、近所のスーパーへ買い物に行っているので、顔なじみになり声を掛けて下さる地域の方が増えている。	日々の散歩や買い物などで馴染みの関係性が出来、身近な人達との関わりを大切にしている。地域の季節行事への参加・芸能のつどいや神輿見学などを共に楽しみ、自然な形で溶け込んでいる。より広い範囲での活動の普及に努めるべく地域の一員として交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者100万人キャラバンのアドバイザーとして地域の方に講演し、地域の方に認知症のことを理解してもらおう努力をしている。また、地域密着型サービス事業者交流会にも参加し、地域の高齢者等の暮らしに役立つことはないか検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	女性会の会長やスーパーの店長・お寺の住職など地域の方を増やし、二ヶ月に一回、状況報告を行い、助言を頂きサービスの向上に努めている。出席しない職員は議事録を読み内容を把握している。	同建物内の小規模多機能型居宅介護と合同で隔月開催し、幅広い参加メンバーを得て各種報告や現状説明など活発に意見交換を行っている。ひやり・はつと報告作成など家族他からの貴重なアドバイスを運営に取り入れより良いサービス提供につなげている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	入居者の困りごとを相談に行くなど協力関係を築いている。	普段から報告・相談・手続きなどで密に連携している。認知症サポーター養成講座を受け持ち地域との交流を深め、地区内の他事業所との交流会で情報交換や親睦を重ね、今年度はタスキマラソン「RUN伴」の応援参加など相互協力に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議で、研修を行い職員の意識統一をしている。また、外部研修にも参加し、日々拘束は行わないことを職員全員が、意識してケアに取り組んでいる。少しでも疑問に思った事は全職員で話し合いをしている。入居者の動きを職員が言葉や強制的な態度で止めることがないように努めている。	日頃から職員間で話し合う機会も多く、相手の立場になって介助時の声掛けが指示的にならないよう留意するなど細やかな配慮を心がけている。拘束を必要としないケアに努め、運営推進会議時に適正化について検討を重ね意識向上を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は、事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い防止に努めている。また、虐待の研修に行き全体会議で、全職員に伝えると共にユニット会議でも虐待について研修を行っているが、入居者の身体に傷や青あざ見つけた時はインシデントに記入し直ぐ上司に報告をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が勉強会に参加し成年後見制度について学び活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	面接時、家族の不安や、疑問を聞き、契約時には、契約内容の説明をしっかりと行っており、納得して頂いてから、契約をしてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項にも載せているが、苦情処理の体制ができていない。7月の家族会の中でご家族から「もえぎのインシデントの数が少ないのは何故か？」という質問が出たので、ユニット会議で安全対策委員会が研修を行い職員全員でインシデントについて話しあった。	年5回の家族会や面会時などで意見・要望を伺い、ユニット会議で集約検討し運営に反映している。プレミアム商品券を使用可能にするなど、親身になったより良い方向性への対応を心掛け、家族ほかの安心につながるよう日々の支援に活かしサービス向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	平成24年度から人事考課を取り入れて代表者や管理者は、年に3回個別に面談を行って意見や提案を聴いている。平成29年度から職員全員にアンケートを行い、様々な意見を吸い上げている。また、コミュニケーションチーム・安全対策・人材育成チームで活動を行い、職員の意見が反映される様に取り組んでいる。	ユニット会議や全体会議、各種委員会などでケアの改善や就業環境について話し合い、職員からの発案を取り入れ運営に活かしている。細かな気づきを記録し共有化を図るなど改善に向けた取り組みに反映された事例がある。職員間で「ありがとうカード」の定着や交換研修などで研鑽を積んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心を持てる様に、ユニットの年間目標及び、個人の目標を作成している。研修においては会社が1万円までの補助を行い学機会を増やしている。平成29年度より職員全員にアンケートを取りコミュニケーションチームとして活動を行い、職員の意見を吸い上げて職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	会社が1万円の補助を出して職員が行きたい研修に参加出来るようにしている。外部からの講師を招いての研修を行っている。主任、副主任が講師となり、勉強会を行いチームケアの大切さ、お年寄りの疑似体験、介助されるお年寄りの気持ちを考えるなどテーマに沿って学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	安芸区のグループホームや認知症サポーター・地域との交流会に参加して、テーマに沿って意見交換会を行っている。また、グループホームもえぎ野の職員と相互交流会を行なった。学習目標を決めて見学実習と言う形で交流を行い、ユニット会議で交流会で学んだこと感じたことを発表を行った。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前には、事前訪問もしくは、事前にホームに来ていただき、説明や本人の望むこと、不安などを、お話ししながら、受けとめる努力をしている。お聞きした内容について、入居前に職員全員で話し合いを行い希望を取り入れた不安がないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前には、事前訪問、またはホームに来ていただき、説明や家族の望むこと、不安な事などを聞きながら、受け止める努力をしている。相手の立場に立ち、話を良く聞き受け止め関係を築くことに努め、家族の体験や思いを理解しその家族自身を支える努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事業所として出来る限りの対応に努め必要に応じて、他のサービス利用の調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者に調理の下ごしらえ、盛り付けなどを手伝ってもらい、職員も一緒に食事を摂ることで、共通の話題が増えている。手すり、洗面台の拭き掃除、食器拭き洗濯たみなど入居者の方々が無理なく今できることを、スタッフが声をかけ一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来て頂くことを、積極的をお願いをし、家族と一緒に本人を支えるように取り組んでいる。また、入居時に共に支えていくことをお願いし、了承を得ている。家族会との合同行事への参加が、徐々に増えており、面会時には日々の生活の様子や次回の行事の予定など、お話するように心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族、知人、友人からの手紙や、電話のやりとりを大切にしている。面会は自由に出来ており、急に訪ねて来られた友人の方とゆっくりお話が出来るように配慮している。また、今まで通っていた美容院へも出かけ、今までの関係が切れないように支援している。	面会や各種ボランティアの来訪も多く、外部関係者とふれ合う機会に恵まれ音楽やレクなどを一緒に楽しみ関係継続に努めている。馴染みの美容院や旧知の友人との繋がりを大切に、思い思いの日々が送れるよう生活サイクルに合わせ取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士、話ができ関わりを持てるように、職員が中に入り支援をしている。また、新しく入居された方がみんなの中に溶け込めるように、職員がレクリエーションや体操の時間に良く声をかけている。ホットプレートを活用し、入居者同士が協力をして、お手伝い出来るように職員が声をかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も相談があればいつでも応じ、今までの関係を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望、意向を大切に把握が困難な場合は本人の視点に立って思いを汲み取るように努めている。ご家族が面会に来られた時に、好きな食べ物、良く観られておられたテレビ番組、趣味、ペットなどについて、ご家族から情報を頂き日々の生活やご本人との会話に役立っている。	本人・家族との会話内容に加え生活歴をもとに趣味や元職場についてなど昔の懐かしい情報を役立て個別ケアに活かしている。家に帰りたい思いに娘さん宅で数日過ごせるよう支援した例など、さりげない声掛けや変化の気づきに留意し、本人の心の声を汲み取ることに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接時に本人の生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の経過などの把握を行っている。また、入浴の際、リラックスされた時にふと、昔の思い出や子供のころの話がされる事があるので、入浴担当の職員が聴き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活を通して、その人らしい暮らしが出来るよう、努めている。また、お手伝いをして頂くことで、今出来ることを発見したり、思いがけない力を発揮される場面もあるので、できるだけ参加して頂けるように、声掛けをしている。寝不足や体調不良の方がおられたら、早目に休んで頂くよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族から情報収集を行い、本人、家族の求めているものが提供できるようアセスメントをし、介護計画を作成している。またユニット職員での話し合いを定期的に行い、各入居者のケアのあり方、意見、アイデア等を反映させて介護計画を作成している。</p>	<p>その人に合ったケア内容や意欲につながる目標設定になるよう本人・家族・専門職関係者と協議しプラン作成を行い、定期的にモニタリングで見直している。ユニット毎の職員ミーティングで多角的な意見を反映させ次回作成時に活かせるよう工夫している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の記録用紙があり、入居者の状態を日々記録している。また、職員は業務前に記録を読み、業務の申し送りを行い情報の共有に努め、業務に活かすよう心掛けている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や家族の要望に向かい合い、その時々に必要な支援を出来る限り柔軟に対応するよう取り組んでいる。急な外出や、予定の変更があっても本人が安心して過ごせるよう対応している。散髪・買い物など、頼まれても直ぐに出来ない事もあるが、スタッフ間で時間を調整して早目に対応するように心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>月1回、音楽会や法話の時間を通じて地域の人々の力を借り、協力しながら支援をしている。また、中学生の職場体験を積極的に受け入れている。11月から12月にかけてボランティアの実習生の方や介護の実習生が来られ入居者と楽しくお話をしたりおやつを一緒に食べながら過ごしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>週に1回、協力医の定期的な往診があり、本人、家族の希望があれば馴染みの医師による継続的な医療を受けて頂いている。本人の訴えや日々の変化など情報提供している。入居者の急変時には、夜間であっても迅速に医師が対応をして下さる。</p>	<p>毎週主治医の訪問診療がある。看護師の配置や緊急時への迅速な対応など、適切に医療連携している。馴染みの病院への通院など各自の希望に沿い、その情報は共有化されている。感染症予防対策や服薬管理に努め、バイタルチェックを含め健康維持に取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内で看護職員を確保し健康管理や医療的な支援を行っている。入居者に変化や異常がみられたらすぐに看護師に伝えて、指示を受けて対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族の了解を得た上で本人に関する情報提供を行っている。入院中も面会に行く等し関わりを継続し、病院関係者とも連絡を取り、短期間での退院に繋がるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時、重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合、早い段階で本人、家族の意向を確認しケア関係者、かかりつけ医を交え対応方針を話し合い共有化を図っている。フロア会議でスタッフも対応方針を考え日々不安に思っていることや疑問点などを話し合っている。	重度化した場合の指針があり、あらかじめ説明し早い段階から話し合い、本人・家族の意向に合わせ、その人らしく最期まで過ごせるようチームで取り組んでいる。医療関係者のバックアップ体制が整い、日々の生活への気配りや個々の思いに寄り添う支援を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルがあり、いつでも職員が目を通せるようにしている。入社時にバイタルチェックやAEDの使い方について指導を行い、11月の全体会議で新しいAEDの研修会があり人体模型を使用して胸骨圧迫の実習を行った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防火訓練を行っている。その時同ビルの他事業所の方も参加して頂き、避難誘導の協力を得ている。防火訓練時、運営推進会議のメンバーの方にも参加して頂き、意見や災害時の協力体制について話している。3月に初めて4事業所全体で風水害を想定しての避難訓練を行った。	同ビル内事業所と合同で定期的に防災避難訓練を行い、風水害想定での避難訓練も実施している。今般の様々な気象変化に伴うリスクに迅速に対応し、運営推進会議でもテーマに挙げて話し合い安全確保への意識を高めている。ローリングストック法を活用し水・非常食・常備薬など備蓄を整えている。	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者ひとり一人が、笑顔になるような言葉かけを心がけている。拒否的な言葉は使わないように気を付けている。出来る限り本人の思いを受け止めるようにしている。対応が難しい時は時間をおいたり介助者交代をすることで本人の気持ちの切り替えや安心感につながるようにしている。	それぞれの暮らしが豊かなものであるよう思いや要望に沿ったケアに努め、否定的にならない声掛けや接遇を心がけている。トイレ介助時やトイレ誘導の際など尊厳を損なわない心配りを行い、個人情報の取り扱いにも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者の発言をよく聴き、出来るだけ本人の希望に沿った生活が出来るように心がけている。自分の思いを表現するのが難しい入居者に対しては、表情や体調をみて職員間で話し合い、納得した生活を送って頂けるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の意見を聴き、出来るだけ本人のペースに合った生活が出来るように対応している。意思表示の難しい方に対しては本人の状態や表情を読み取り、出来るだけ希望に添えるように努めている。「何かお手伝いをしたい」と言われた時は「やりたい」という意欲を失わないように直ぐに対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝、服を着替える時は、出来るだけ本人にお聞きして、服を選んでいる。近所の理・美容院へ出かけて、個々の希望に合わせたカット等行っている。朝の整容の時に髪の設定に気を付けている。外出行事やホーム内での行事がある時は帽子やスカーフをアレンジして華やかな装いになるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理や片付けなど職員と一緒にしている。また、食事と一緒にとり、声かけをしながら楽しい雰囲気になるよう心がけている。天気の良い日には、職員と食材の買物に行っている。飲み込みが難しい方にはトロミをつけたりミキサーをかけている。	手作りの温かい食事提供で、各々の嗜好を加味したメニューや食べやすい食事形態に配慮している。出来ること、やりたいことを共に行い、生活活動として楽しめるようホットプレートでおやつ作りなど工夫している。誕生祝いや外出時などスペシャルランチで楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食、食事量・水分量のチェックを行っている。水分摂取の少ない入居者には個別に飲み物を用意して、こまめに飲んで頂く様にしている。栄養バランスのよい食事になるように心がけている。入居者の体重測定を月に1回行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアの声かけを行い、困難な方には状態に合わせて職員が介助している。一人ひとりに合った歯ブラシを選んで使用している。また、うがいが出来ない方にはスポンジブラシを使用して口腔ケアを行っている。しかし、自分で歯磨きをされる方の口腔内のチェックが出来ていない。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排尿、排便チェックを行い、排泄パターンを把握し、トイレで排泄が出来るように努めている。下着・リハビリパンツ・尿取りバット等日中、夜間、外出時に応じて使い分けている。尿量が多い方は早目にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄の習慣を大切にしている。</p>	<p>個々の習慣に合わせたトイレ誘導を行い自然な排泄を促している。日常の水分補給や適度な運動で心地よい排泄ができるように努め、パッドの種類を用途に応じて使い分け自立に向けた支援に取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘にならないように、出来るだけ水分を多く摂る様に心がけている。野菜を多くメニューに取り入れている。リハビリ体操や夕方のレクリエーションに参加してもらい、身体を動かすように声を掛けている。毎食後トイレ誘導を必ず行っている。トイレの訴えやサインがみられたら直ぐにトイレ誘導を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの体調に合わせて無理強いはせず、入浴を楽しめるよう、湯の温度などなるべく希望に沿うように心がけ、声かけや必要に応じて介助を行っている。また、季節に応じてゆず湯や菖蒲湯などもしている。入浴が難しい方は足浴や手浴、ドライシャンプーを行っている。</p>	<p>入浴は一日おきで、それぞれの体調や希望に合わせて、ゆっくりと湯船に浸かりリラクゼーションを感じ取れるよう、優しい声掛けで支援している。柚子や菖蒲などで季節の香りを楽しむほか、昔の話やタイムリーな話題など利用者とのコミュニケーションの時間として活かしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	その時々 の状況に 応じて、 ベッド で休ん だり、 フロア でも休 めるよ うにソ ファを 置き、 何処で も休ん で頂け るよう にして いる。 冬は居 室に加 湿器を 入れて 乾燥し ない様 に気を つけて いる。 よく汗 をかく 方に対 しては、 こまめ に着替 えを行 ったり、 寝具を 薄い物 に変え ている。		
47		○服薬支援 一人ひと りが使用 している 薬の目的 や副作用、 用法や用 量について 理解して おり、服 薬の支援 と症状の変 化の確認 に努めて いる。	一人ひと りの個人 ケースに 薬の内容や 副作用の 説明書を 閉じてい る。また、 入居者全 員の薬の 説明書を ファイル して、書 棚に保管 し、すぐ に確認出 来るよう にしてい る。2人 の職員で 必ず服薬 前のダブ ルチェッ クを行 い、誤薬 がな いよう に気を 付けて いる。薬 の副作用 などの細 かいと ころの 把握は 出来て いない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合い や喜びの ある日々 を過ごせ るように、 一人ひと りの生活 歴や力を 活かした 役割、嗜 好品、楽 しみごと と、気分 転換等の 支援をし ている。	食器洗い や洗濯物 干し、洗 濯物たた み、おか ずの盛り 付け、調 理の下ご しらえ、 掃除など 役割を持 って頂い ている。 季節の行 事や誕生 日会等、 カレン ダーに書 いてお り、楽し みが共有 出来る よう努 めてい る。職員 が新聞記 事の中 から入居 者が興味 をもっ ておられ る内容を 伝えたり、 一緒に会 話するよ う心掛け ている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひと りのその 日の希望 にそっ て、戸外 に出かけ られるよ う支援に 努めてい る。また、 普段は行 けないよ うな場所 でも、本 人の希望 を把握し、 家族や地 域の人々 と協力し ながら出 かけられ るように 支援して いる。	日常の買 い物は入 居者の体 調をみな がら声を 掛け、順 番に出か けている。 外食や美 容院へも 出かけて いる。10 月に船越 ・海田地 区で、浅 野氏広島 入城400 年記念の 大名行列 や区民セ ンターで 行われる 催しもの に職員と 出かけて いる。	日帰り外 出行事を 企画し、 音戸大橋 にドライ ブで出か け見学と 食事を楽 しみ秋の 風情を味 わった。 地区行事 の大名行 列見学や 芸能の集 いなどへ 気軽に参 加し、交 流外出に 努めてい る。日々 の散歩・ 買い物・ 外食ほか 気分転換 の場 面を普段 から豊富 に楽しん でいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、 本人がお 金を持つ ことの重 要さを理 解してお り、一人 ひとりの 希望や力 に応じて、 お金を所 持したり 使えるよ うに支援 している。	買い物の 時は、職 員が代行 することが 多い。		

自己評価	外部評価	項目(ふたばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望に応じ、電話で自由に話ができるようにしており、職員は席を外すようにしている。手紙は目が見えなくなり読めない入居者には本人の代わりに職員が読んで聞いてもらっている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を飾ったり、季節に関するものを置いている。犬も飼育している。整理整頓に心がけ不必要なものは置かないようにしている。また、ソファを増やし皆がゆったり過ごせるようしている。トイレに小型の暖房ヒーターを置いて入居者が寒くないようにしている。</p>	<p>明るいリビングには花や季節感のある飾り付けが施され、シンプルに整った家庭的で訪れやすい雰囲気となるよう配慮している。アイドル犬の癒し効果で和やかな時が流れ、個々のペースで趣味や談笑を楽しみ、憩いの共用スペースとなるよう細やかに配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやテーブル、畳などの空間があり入居者同士で話をされたり、思い思いの場所で過ごすことができるよう、配置も心かかっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家で使い慣れた生活用品や衣類、家具、アルバム等持ち込んで頂いている。タンスの上に家族の写真、家族からの手作りメッセージカードや毎月入居者が参加された行事の写真カレンダーを飾っている。</p>	<p>家庭で使い慣れた愛着のある品々やメッセージカードなどに囲まれ、その人らしく落ち着いて過ごせるようレイアウトされている。おしゃれや整容を自由に楽しみ、家族ほかとの面会時にゆっくり話ができる居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者一人ひとりの出来る力を把握して、一人で出来ることは時間がかかっても行えるように見守りを行い、出来ない事を毎日の声かけや対応で手助けをし、自立した生活が過ごせるようにしている。今、出来ていることを継続できるように声掛けを行っている。</p>		

V アウトカム項目(ふたばユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月1回の職員全体会議で、基本理念に基づいた研修や話し合いを行い、基本理念について職員が常に振り返る様にしてしている。茶話会で対応が難しい時は、理念を基本にして、職員間で話し合い、毎日、笑顔で入居者に接するように努めている。名刺大の三つ折り携帯カードに理念を書いて全職員に配りいつでも確認できるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎年、お祭りや地域の行事などに参加しており、準備や後かたづけや反省会にも、毎年参加させて頂いている。秋祭りではお神輿を担ぐなど、年々地元の人々と交流が深まっている。毎日、近所のスーパーへ買い物に行っているため、顔なじみになり声を掛けて下さる地域の方が増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症高齢者100万人キャラバンのアドバイザーとして地域の方に講演し、地域の方に認知症のことを理解してもらう努力をしている。また、地域密着型サービス事業者交流会にも参加し、地域の高齢者等の暮らしに役立てることはないか検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	女性会の会長やスーパーの店長・お寺の住職など地域の方を増やし、ニヶ月に一回、状況報告を行い、助言を頂きサービスの向上に努めている。出席しない職員は議事録を読み内容を把握している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	入居者の困りごとを相談に行くなど協力関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	全体会議で、研修を行い職員の意識統一をしている。また、外部研修にも参加し、日々拘束は行わないことを職員全員が、意識してケアに取り組んでいる。少しでも疑問に思った事は全職員で話し合いをしている。入居者の動きを職員が言葉や強制的な態度で止めることがないように努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は、事業所内で虐待が見過ごされる事がないよう注意を払い防止に努めている。また、虐待の研修に行き全体会議で、全職員に伝えると共にユニット会議でも虐待について研修を行っているが、入居者の身体に傷や青あざ見つけた時はインシデントに記入し直ぐ上司に報告をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者が勉強会に参加し成年後見制度について学び活用できるよう努めている。実際に2名の入居者が「かけはし」を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	面接時、家族の不安や、疑問を聞き、契約時には、契約内容の説明をしっかりと行っており、納得して頂いてから、契約をしてもらっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項にも載せているが、苦情処理の体制ができている。7月の家族会の中でご家族から「もえぎのインシデントの数が少ないのは何故か？」という質問が出たので、ユニット会議で安全対策委員会が研修を行い職員全員でインシデントについて話しあった。		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	平成24年度から人事考課を取り入れて代表者や管理者は、年に3回個別に面談を行って意見や提案を聴いている。平成29年度から職員全員にアンケートを行い、様々な意見を吸い上げている。また、コミュニケーションチーム・安全対策・人材育成チームで活動を行い、職員の意見が反映される様に取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	向上心を持てる様に、ユニットの年間目標及び、個人の目標を作成している。研修においては会社が1万円までの補助を行い学機会を増やしている。平成29年度より職員全員にアンケートを取りコミュニケーションチームとして活動を行い、職員の意見を吸い上げて職場環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	会社が1万円の補助を出して職員が行きたい研修に参加出来るようにしている。外部からの講師を招いての研修を行っている。主任、副主任が講師となり、勉強会を行いチームケアの大切さ、お年寄りの疑似体験、介助されるお年寄りの気持ちを考えるなどテーマに沿って学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	安芸区のグループホームや認知症サポーター・地域との交流会に参加して、テーマに沿って意見交換会を行っている。また、グループホームもえぎ野の職員と相互交流会を行なった。学習目標を決めて見学実習と言う形で交流を行い、ユニット会議で交流会で学んだこと感じたことを発表を行った。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前には、事前訪問もしくは、事前にホームに来ていただき、説明や本人の望むこと、不安などを、お話ししながら、受けとめる努力をしている。お聞きした内容について、入居前に職員全員で話し合いを行い希望を取り入れたり不安がないように努めている。		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前には、事前訪問、またはホームに来ていただき、説明や家族の望むこと、不安な事などを聞きながら、受け止める努力をしている。相手の立場に立ち、話を良く聞き受け止め関係を築くことに努め、家族の体験や思いを理解しその家族自身を支える努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事業所として出来る限りの対応に努め必要に応じて、他のサービス利用の調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者に調理の下ごしらえ、盛り付けなどを手伝ってもらい、職員も一緒に食事を摂ることで、共通の話題が増えている。しかし、特定の人だけになっているところがあるので、全入居者との関わりをもっと取るように努める。残存能力を出来る限り使って頂けるようなケアを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来て頂くことを、積極的にお願いをし、家族と一緒に本人を支えるように取り組んでいる。また、入居時に共に支えていくことをお願いし、了承を得ている。家族会が出来て合同で行事を行う事により喜怒哀楽を共にしている。面会には良く来て下さっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人、友人からの手紙や電話のやり取りを大切にしている。面会は自由に来て頂いている。また、今まで通っていた美容院へも出かけ、今までの関係が切れないように支援している。		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士、話ができ関わりを持てるように、食事のテーブル席の配置やソファの座る位置を工夫している。しかし、入居者同士のトラブルも多くなっているのでもっと積極的に関わるように努める。毎日、全員参加出来るようなレクリエーションを行い、関わりを持てるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後も相談があればいつでも応じ、今までの関係を断ち切らないようにしている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望、意向を大切に把握が困難な場合は本人の視点に立って思いを汲み取るように努めている。ご家族が面会に来られた時に、好きな食べ物、良く観られておられたテレビ番組、趣味、ベッドなどについて、ご家族から情報を頂き日々の生活やご本人との会話に役立てている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接時に本人の生活歴や生活環境、これまでのサービス利用の経過などの把握を行っている。また、入浴の際、リラックスされた時にふと、昔の思い出や子供のころの話がある事があるので、入浴担当の職員が聴き取っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日常生活を通して、その人らしい暮らしが出来るよう、努めている。また、お手伝いをして頂くことで、今出来ることを発見したり、思いがけない力を発揮される場面もあるので、できるだけ参加して頂けるように、声掛けをしている。家族が面会に来られた時に、これまでの暮らしについて聴くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人・家族から情報収集を行い、本人、家族の求めているものが提供できるようアセスメントをし、介護計画を作成している。またユニット職員での話し合いを定期的に行い、各入居者のケアのあり方、意見、アイデア等を反映させて介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個別の記録用紙があり、利用者の状態を日々記録している。また、職員は業務前に記録を読み、情報の共有に努め、業務に活かすよう心掛けている。体調や日々の様子などを、少しでも変化がある時には、申し送りや張り紙をして情報の共有をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>本人や家族の要望に向かい合い、その時々に必要な支援を出来る限り柔軟に対応するよう取り組んでいる。急な外出や、予定の変更があっても本人が安心して過ごせるよう対応している。散髪・買い物など、頼まれても直ぐに出来ない事もあるが、スタッフ間で時間を調整して早目に対応するように心がけている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>月1回、音楽会や法話の時間を通じて地域の人々の力を借り、協力しながら支援をしている。また、中学生の職場体験を積極的に受け入れている。11月から12月にかけてボランティアの実習生の方や介護の実習生が来られ入居者と楽しくお話をしたりおやつと一緒に食べながら過ごしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>週に1回、協力医の定期的な往診があり、本人、家族の希望があれば馴染みの医師による継続的な医療を受けて頂いている。本人の訴えや日々の変化など情報提供している。入居者の急変時には、夜間であっても迅速に医師が対応を下さる。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内で看護職員を確保し健康管理や医療的な支援を行っている。入居者に変化や異常がみられたらすぐに看護師に伝えて、指示を受けて対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、家族の了解を得た上で本人に関する情報提供を行っている。入院中も面会に行く等し関わりを継続し、病院関係者とも連絡を取り、短期間での退院に繋がるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時、重度化した場合の指針を説明している。重度化した場合、早い段階で本人、家族の意向を確認しケア関係者、かかりつけ医を交え対応方針を話し合い共有化を図っている。フロア会議でスタッフも対応方針を考え日々不安に思っていることや疑問点などを話し合っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルがあり、いつでも職員が目を通せるようにしている。入社時にバイタルチェックやAEDの使い方について指導を行い、11月の全体会議で新しいAEDの研修会があり人体模型を使用して胸骨圧迫の実習を行った。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回防火訓練を行っている。その時同ビルの他事業所の方も参加して頂き、避難誘導の協力を得ている。防火訓練時、運営推進会議のメンバーの方にも参加して頂き、意見や災害時の協力体制について話している。3月に初めて4事業所全体で風水害を想定しての避難訓練を行った。		

自己評価	外部評価	項目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人ひとりの誇りを尊重しプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を個々に行っており、スタッフ間で声掛けを行い、なるべく統一を図っている。乱雑な声掛けにならないように、職員全体で声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日々の生活の中で、表情や会話の中で自己決定やその人らしい希望や願いを、意図的に引き出すように努めている。レクリエーションやお手伝いなど、自己決定が出来るような、働きかけをしている。普段の会話の中で、願いや不安など話し合える関係を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりの生活のリズムに配慮をしながら、生活歴の中で得意なこと、好きなことを、日々の生活の中でしてもらい、その人らしく暮らせるよう努めているが職員のペースになっていることがある。出来る限り本人のしたいことや出来ることをして頂くように努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝、服を着替える時は、出来るだけ本人にお聞きして、服を選んでいく。近所の理・美容院へ出かけて、個々の希望に合わせたカット等行っている。朝の整容の時に髪の毛のセットに気をつけている。外出行事やホーム内での行事がある時は帽子やスカーフをアレンジして華やかな装いになるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者の好みを聞き、出来るだけメニューに取り入れ、誕生日や季節の行事には、それに合わせたメニューにしている。調理や片付けなど職員と一緒にしている。また、食事と一緒にとり、声かけをしながら楽しい雰囲気や介助が必要な方も増えており、美味しく召しあつて頂けるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎食、食事量・水分量のチェックを行っている。身体レベルに合わせて調理方法を工夫し、見た目にも色彩が綺麗で食欲がわく様な盛り付けを心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアの声かけを行い困難な場合は、ゼスチャー等を交えながら、状況に合わせて支援している。また、ハミンググット、ガーゼ等を使用し個々に合った対応をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排便・排尿チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンに合わせ、可能な限りトイレでの排泄に向けた、支援をおこなっている。可能な限り、布パンツを使用して頂いているが、パッドの当て方などで失敗をする事がある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘気味の方には自然排便が出来るように水分摂取やフロア内を歩くなど運動にも心掛けている。また、バナナ牛乳や繊維質のものを食事にとり入れている。職員間で良い情報を取り入れ話し合い、排尿・排便時足台を置くなど色々工夫をしてスムーズな排尿・排便を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人ひとりの体調に合わせて無理強いはせず、入浴を楽しめるよう、湯の温度などなるべく希望に沿うように心がけ、声かけや必要に応じて介助を行っている。また、季節に応じてゆず湯や菖蒲湯などもしている。入浴が難しい方は足浴や手浴を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	その時々 の状況に 応じて、 ベッド で休ん だり、 フロア でも休 めるよ うにソ ファを 置き、 何処で も休ん で頂け るよう にして いる。		
47		○服薬支援 一人ひとり が使用 してい る薬の 目的や 副作用 ，用法 や用量 につい て理解 しており ，服薬 の支援 と症状 の変化 の確認 に努め ている。	一人ひとり の個人 ケース に薬の 内容や 副作用 の説明 書を閉 じてい る。2 人の職 員で必 ず服薬 前のダ ブルチ ェック を行い ，誤薬 がな いよう に気を 付けて いる。 また、 薬の拒 否があ る入居 者に対 しては 職員が 交代す るなど して対 応して いる。 薬の副 作用な どの細 かいと ころの 把握は 出来て いない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合い や喜び のある 日々を 過ごす ように ，一人 ひとり の生活 歴や力 を活か した役 割、嗜 好品、 楽しみ ごと、 気分転 換等の 支援を してい る。	日々の生 活の中 で個々 に役割 を持つ てもら い、犬 の世話 や塗り 絵、散 歩や行 事、買 い物等 など気 晴らし が出来 るよう に支援 してい る。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとり のその 日の希 望にそ っ て、戸 外に出 かけら れるよ う支援 に努め ている。 また、 普段は 行けな いよう な場所 でも、 本人の 希望を 把握し ，家族 や地域 の人々 と協力 しなが ら出か けられ るよう に支援 してい る。	毎日、買 い物に 出掛け ている が、出 掛ける 入居者 に偏りが ある。ご 家族の 協力も なかなか 得られ ない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、 本人が お金を 持つこ の大切 さを理 解して おり、 一人 ひとり の希望 や力に 応じて ，お金 を所持 したり 使える ように 支援し ている。	買い物 の時は ，職員 が代行 すること が多い が、出 来る限 りお金 を支払 う機会 をつ くる努 力をし ている。		

自己評価	外部評価	項 目(みつばユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人の希望に応じ、電話で自由に話ができるようにしており、職員は席を外すようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を飾ったり、季節に関するものを置いている。犬も飼育している。また、毎月、季節感が出る貼り絵を壁に貼っている。お手伝いができる入居者が少なくなったが新しい壁飾りが出来るととても喜んで下さる。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ソファやテーブル、畳などの空間があり入居者同士で話をされたり、思い思いの場所で過ごすことができる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家で使い慣れた生活用品や衣類、写真、アルバム等持ち込んでいただき自分らしく過ごせるようにしている。また、昔話をして自分らしく過ごしておられる。お花や写真を飾ると入居者も喜んでおられる。担当職員が居室の整理整頓、季節毎の衣類の入れ替えなどを行っている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>入居者一人ひとりの出来る力を把握して、一人で出来ることは時間がかかっても行えるように見守りを行い、今、出来ていることを継続できるようにしている。職員間で意見交換を行い声掛けの統一や介助の方法を話し合い、入居者の出来ることを一つでも増やせるように心がけている。</p>		

V アウトカム項目(みつばユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもえぎ

作成日 令和2年2月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	7	入居者の身体に傷や青あざを見つけた時はインシデントに記入しているが、原因追究が曖昧である。	入居者の傷や青あざの軽減。	月に1回のフロア会議でインシデントの原因に対して対策を考え実行し再検討をする。	令和2年3月1日～令和3年2月28日
2	29	ボランティアの方が少ない。	来て下さっているお話ボランティアの方が一人でも増える。	現在のボランティアの方が継続して下さるように受け入れ態勢を整える。	令和2年3月1日～令和3年2月28日
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。